



TITLE:

きらめく動物たちの命と海:久保田
信の白浜だより(その6)

AUTHOR(S):

久保田, 信

CITATION:

久保田, 信. きらめく動物たちの命と海:久保田信の白浜だより(その6).
うみひろも 2011, 80: 24-25

ISSUE DATE:

2011-06-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/180228>

RIGHT:

© 海の生き物を守る会

3. きらめく動物たちの命と海 【久保田信の白浜だより(その6)】

凍死して打ち上がる熱帯魚たち

例年、冷え込みが厳しい2月をピークに、約2カ月間が、黒潮に乗ってやってきて田辺湾に住み着こうとしている熱帯魚たちにとって受難の季節となる。まさに『生きるか死ぬかの瀬戸際』なのだ。

北浜で毎日観察をしているが、2005年2月8日に10種19個体が打ち上がっているのを発見した。この日に最も多かったのがツマジロモンガラで9個体(図)、次にネツタイミノカサゴが2個体で、あとの8種は1個体ずつだった。この中には、これまで確認したことがなかったヘリシロウツボ幼魚とアミメウマヅラハギもまじっていた。あとは、ニセカンランハギ、キリンミノ、アオヤガラ、ハナキンチャクフグ、そしてよく打ち上がるウミスズメ、シマウミスズメだった。2005年2月に入って打ち上げが目立つようになり、

様々な熱帯魚の多数の打ち上げ

今年はツマジロモンガラの大形個体が、多数、打ち上がった。2005年2月10日午後3時ごろにも9個体が打ち上がった。8日と10日の両日以外の日は、どの日も数個体ずつの打ち上げで、冬季はずっと連続して打ち上がったのが印象的だった。他の魚種も、ツマジロモンガラと同様に、毎日打ち上がる個体数はごくわずかだった。私にとって今年初めて打ち上げ魚種として確認できたのは、カモハラギンポである。これは18日に1個体を発見し、他の日にも干からびた1個体を発見した。

2月13日には熱帯系の珍種オナガウツボ1個体が、瀕死の状態で波打ち際に横たわっていた。オナガウツボは、通常、沖縄以南に分布する種だ。日本最長のウツボで、全長3 mにも達する。体をつついてみると、かすかに動いたため、京都大学白浜水族館に持ち帰った。体長が1.5 mほどもあった。

オナガウツボを水槽へいれると、すぐに息を吹き返した。しばらく静養させた後、数日後に瀬戸臨海実験所水族館のウツボコーナーでお目見えさせた。オナガウツボはその特徴的な細長い体をくねらせて元気だった。だが、ぐるぐると落ち着きなく回りつづけ、時には上下にも移動するなど、行動はどことなくおかしかった。泳ぎ方もバランスを欠いて

おり、不自然な体勢だったのは、平衡感覚が麻痺していたせいかもしれない。気になって
いた通り、数日後には死亡してしまった。

このオナガウツボは、既に入っている体長 2 m ほどもあるニセゴイシウツボの口先に
「よくもそんなことを平気でできる」と驚くほど、何度も何度も当たっていた。しかし、
全く噛まれることもなく、他のウツボたちも攻撃しなかった。この水槽には、2 属 8 種の
ウツボ類（アデウツボ、アミメウツボ、ウツボ、サビウツボ、トラウツボ、ニセゴイシウ
ツボ、ハワイウツボ）計 21 個体とゴイシウミヘビ 3 個体がいる。水槽の底に 3 段に並べた
多数の塩ビパイプ（直径約 15 cm と 30 cm、長さ約 1 m）に入って仲良く暮らしている。
凶暴と思われがちなウツボたちは、水槽のガラス越しにのぞくと、可愛い目をしている。
口に鋭い歯が多数生えていて、ぱっくり開けるとちょっと怖い、意外におとなしい動物
のようだ。

今年の冬季に北浜に打ち上がった魚種としては、上記のほかには、田辺湾で普通に
見られる種ばかりであるが、ハリセンボン、ハコフグ、イシガキフグ、アイゴ、イザリウ
オの 1 種、クロホシイシモチ、ヘラヤガラなどが見られた。

黒潮大蛇行による水温低下が凍死の原因

2005 年は熱帯魚の受難の年になった。この年は黒潮が大蛇行しており、紀伊半島沿
岸への接近がなかったため海水温が低下する。地球温暖化によって、今回発見されオナガ
ウツボのように南方系の生物たちの分布が北上している。しかし、黒潮という強大な流れ
の変化は、ぎりぎりの生活場所で生きる魚たちにとって、このような受難はやむを得ない
宿命なのである。



図. 瀬戸臨海実験所北浜に数多く打ち上がったツマジロモンガラの成魚。